

## 4. 経済的社会的効果

### （1）観光への効果

#### 主な指標と効果を最大化するための取組

- IRが開業すると、MICEの開催などにより多くの来訪者が想定される。特に訪日外国人旅行者は、大幅な増加が見込まれる。

想定目標指標（2030年度）		効果を最大化するための取組
各施設への総来場者数	約1,300万人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内外のメディア媒体でのPR</li> <li>・ 国内外の商談会・見本市への出展</li> <li>・ IR観光アプリ導入によるデータを活用したマーケティングの実施</li> <li>・ シーザーズ・エンターテインメントと連携した高所得者向けマーケティングの実施</li> <li>・ 多様な言語スキルを有する人材の確保</li> </ul>
IR区域への来訪者数	約650万人	
うち日本人	約540万人	
うち外国人	約110万人	
国際会議の開催件数	19件（JNTO基準※1） 5件（ICCA基準※2）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内外エージェント及び企業への直接的な活動</li> <li>・ 海外見本市/商談会へのプロモーション</li> <li>・ キーパーソンやホスト団体との関係構築</li> </ul>
送客施設を 活用した旅行者数	約12万人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「IR事業者（送客部門）」「観光関連事業者」「地域、DMO等」の三位一体連携体制の構築による取組推進</li> </ul>

※1 「国際機関・国際団体」（各国支部を含む）又は、「国家機関・国内団体」（民間企業以外）が主催する国際会議（参加者総数：50人以上、参加国：日本を含む3カ国以上、開催期間：1日以上）

※2 3カ国以上をローテーションする国際機関が主催する国際会議（参加者総数：50人以上、開催期間：定期的に開催）

### （2）地域経済への効果

#### 主な指標と効果を最大化するための取組

- 観光分野は波及効果の裾野が広いといわれており、IRの立地により様々な産業に大きな経済波及効果を生み出す。

想定目標指標		効果を最大化するための取組
IR施設に対する投資の金額	約4,700億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の建設企業の活用推進</li> <li>・ 国内（県内）産原材料の調達推進</li> </ul>
経済波及効果（建設時）	約7,100億円	
経済波及効果（運営時）	約3,100億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地産地消の拡大を図るなど地域の原材料・製品の活用による域内調達率の向上</li> </ul>
IR区域への来訪者による 旅行消費額（2030年度）	約2,300億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IR施設内の“滞在時間の最大化”と“消費単価向上”の実現</li> <li>・ 送客施設を効果的に活用した“観光ハブ機能”の実現</li> <li>・ ビジネス×レジャーの融合（ワーケーションやプレジャーなど）</li> </ul>
IR施設において雇用する 従業員数（2030年度）	約6,200人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 和歌山県内への居住を推進する環境整備（従業員宿舍の設置等による従業員の住環境の向上）</li> </ul>

### （3）2030年の政府の観光戦略の目標達成への貢献

- 2030（令和12）年、和歌山IRを訪問する訪日外国人旅行者数は約110万人を想定しており、2030（令和12）年における訪日外国人旅行者6,000万人の政府目標の約1.9%の貢献が見込まれる。
- 2030（令和12）年、和歌山IRを来訪する訪日外国人旅行者による旅行消費額は約2,800億円を想定しており、2030（令和12）年における訪日外国人旅行消費額15兆円の政府目標の約1.9%の貢献が見込まれる。